

# 土木広報の展開 -土木広報大賞 2019 から-

シビル NPO 連携プラットフォーム理事  
(公益社団法人土木学会専務理事) 塚田 幸広



土木学会では、日本全国の各地域で展開されている様々な広報のうち、暮らしを支えている土木の役割・意義・魅力について広報を行っている活動または作品などで他団体の模範となるもの、他団体への展開が期待されるものなどを取り上げ、顕彰することを目的として「土木広報大賞」を創設し、展開している。

第2回となる今回は、日本全国から122件の応募が寄せられ、選考委員会（委員長：田中里沙 事業構想大学院大学 学長）による厳正な選考を経て、最優秀賞1件、優秀部門賞6件、準優秀部門賞10件の合計17件を選出した（下表参照）。最優秀賞は、東京都下水道局の

“東京地下ラボ(若者向け東京下水道発信事業)”が受賞した。

今回の受賞の中から、「土木と市民社会をつなぐ」の色合いが濃い（あくまで個人的モノサシ）と考えられる2つの活動を以下に紹介する。

## （1）春吉橋「賑わい空間」の試行イベント

国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所では、一般国道202号線「春吉橋架替事業」の国道本線の切替えに先立ち、地域等への事業に対する理解の促進を図ることとあわせ、迂回路橋を将来の賑わい創出空間として活用したイベントを実施した。実行委員会は福岡国道事

## 土木広報大賞 2019 受賞リスト

No	賞	土木広報活動または作品名	団体名
1	最優秀賞	東京地下ラボ（若者向け東京下水道発信事業）	東京都下水道局
2	優秀部門賞【イベント部門】	春吉橋「賑わい空間」の試行イベント	国土交通省 九州地方整備局 福岡国道事務所
3	優秀部門賞【映像・Webメディア部門】	首都圏外郭放水路のインフラガイド多言語音声アプリ及び洪水疑似体験ARアプリ	国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所
4	優秀部門賞【アイテム部門】	土木偉人かるた	土木学会誌編集委員会・土木広報センター土木リテラシー促進グループ
5	優秀部門賞【教育・教材部門】	土木教育を通した小中高生向け広報活動	日本大学工学部土木工学科コンクリート工学研究室
6	優秀部門賞【商業広告部門】	「大阪国際女子マラソン」協賛を契機とした広報展開	株式会社 奥村組
7	優秀部門賞【企画部門】	「ヒロノジと学ぼう。」～岩手県立種市高等学校海洋開発科：南部もぐり育成PRポスター～	岩手県立種市高等学校
8	準優秀部門賞【イベント部門】	「大人の社会科見学 江戸東京・川のなぜなぜ舟めぐり～シビルエンジニアから聞く川にまつわる話～」および関連セミナー	株式会社 建設技術研究所
9	〃	日本ダムアワード2018	日本ダムアワード選考委員会
10	〃	Discover Doboku -日本の土木再発見-	東京都市大学都市工学科 吉川研究室
11	準優秀部門賞【映像・Webメディア部門】	小島組100周年記念アニメーション『Grab Your Dream～現在・過去・未来』	株式会社小島組
12	〃	風景創造計画「水辺で乾杯」	ミズベリング・プロジェクト
13	準優秀部門賞【アイテム部門】	静岡県防災的公園ガイド「CONPA」	一般社団法人 静岡県建設コンサルタンツ協会
14	準優秀部門賞【教育・教材部門】	すべり面粘土を原料にした土のバステル「Dopas（ドパス）」による防災教育	国土防災技術株式会社
15	〃	デミーとマツ式応援したくなる土木広報	噂の土木応援チームデミーとマツ
16	準優秀部門賞【商業広告部門】	鹿島建設企業広告「次の現場は、宇宙です。」の展開	鹿島建設株式会社
17	準優秀部門賞【企画部門】	第二海堡上陸ツーリズム	国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部 東京湾海堡ツーリズム機構



写真-1 春吉橋「賑わい空間」イベントでの賑わい

務所、福岡市のほか、地元の自治会等（中洲町連合会、春吉・冷泉校区自治協議会）を巻き込み構成している。約1ヶ月と短い準備期間であったものの、実行委員会と連携し広報活動を幅広く展開したことや、隣接する企業との連携、各媒体を駆使した広報活動を実施したことで、予想を上回る約14万人もの多くの市民の入場があった（写真-1参照）。また、アンケートの結果からは、イベント前まで架替事業を「知らなかった」約7割の市民に対して認知度を高めることができ、さらに、賑わいイベントへのリピート意向・満足度については、約8割が満足し、「また来たい」と回答している。身の丈で地域市民を巻き込んだ「賑わい空間の創出」の好事例といえる。

（2）「大人の社会科見学 江戸東京・川のなぜなぜ舟めぐり～シビルエンジニアから聞く川にまつわる話～」および関連セミナー（写真-2参照）

（株）建設技術研究所の国土文化研究所では、東京都中央区のNPO法人などと連携し、東京都心の中小河川をめぐるクルーズ「お江戸日本橋舟めぐり」を2009年より継続的に実施し、

年間200便前後運航している。このクルーズでは、専属のガイドが主に水辺を中心とする江戸・東京のまちの発展の歴史などを案内している。体験後のアンケートの結果からは、案内内容やコース全体等の満足度は、「非常に満足」、「満足」が大半を占め、ほとんどの方がまた機会があれば参加したいと回答している。また、自由回答からも、普段なかなか目にするのではない川からの視点で、その役割・機能が必ずしも十分に理解されていない堤防、護岸、水門、排水機場、橋梁などの土木構造物について、実際に目の前で見ながら専門家からの解説を聞くことで、改めて「都市にはどのようなインフラがあるか」、「そのインフラが災害対策、環境保全、利便性向上などにどのように貢献しているのか」、「インフラがその機能を確実に果たすためには市民の正しい理解がいかに大切か」を知ったとの回答を得ている。すなわち、市民に対して土木の役割を考えていただくきっかけに直接つながる好事例である。



写真-2 江戸東京・川のなぜなぜ舟めぐりの風景

